

CIO育成研修教材

実践力強化版 活用コースモデル

独立行政法人情報処理推進機構 (IPA)

目次

I. コースガイド

1.	本研修教材の概要	2
2.	本研修教材の構成	2
3.	ケース研修の構成	3
4.	コースモデル	4
5.	カットできない演習課題	6

I. コースガイド

1. 本研修教材の概要

中堅・中小企業においては、経営者が経営改革の方向性を示しても、それを具体的な施策として実行に移せる人材は少ない。社外の力を活用する場合においても、コンサルタントやITベンダを目的に照らして評価できる人材も少ない。

本研修教材は、中堅・中小企業において、経営者のビジョンや経営戦略を適確に捉え、経営戦略・IT化構想を正確に把握し、IT化実行計画として取りまとめ、システム開発等のIT化導入を進めると同時に、業務改革を推進できる人材の能力開発を養成するコースウェアの教材である。

本研修教材は、上記の目的を達成するために、以下の内容を盛り込む。

- ①. CIO機能の理解
- ②. 経営者の意思(経営戦略)の把握と確認
- ③. 業務改革課題の発見と改革概要の立案
- ④. IT化企画の立案
- ⑤. IT化プロジェクトの管理
- ⑥. IT化実行計画の策定
- ⑦. 付加価値創造型ビジネス・モデルの作成
- ⑧. プロセス・モデルの具現化
- ⑨. 業務ルールの策定
- ⑩. モニタリング項目の策定とモニタリングの実施
- ⑪. IT導入実施の理解
- ⑫. 提案依頼書の作成と提案評価
- ⑬. リスクマネジメントの理解
- ⑭. 情報セキュリティマネジメントの理解
- ⑮. 成果の評価と改善

2. 本研修教材の構成

本研修教材は、効果的にCIO機能の修得ができるように、研修参加前に読み、CIOのイメージを想定する「事前学習編」、研修の中心である「ケース研修編」、研修終了後にケース研修で取り上げられなかった部分の理解と復習を兼ねた「事後学習編」の3部構成となっている。

第1部 研修事前教材(A4 約90ページ・読み物)

企業経営者が考えているCIO像
CIOの役割と求められるスキル
リスクマネジメントと情報セキュリティ
中堅・中小企業CIO紹介

第3部 ケース研修(PPT 約 350 枚)

モデル企業のCIOとして演習に取り組む
テーマはIT戦略企画

- ①.プロセスのブレイクダウン
- ②.RFPの記載事項
- ③.IT活用による付加価値の創造
- ④.プロジェクト・マネジメント
- ⑤.リスクマネジメント

第2部 研修事後教材(A4 約70ページ・読み物)

研修で取り上げなかったフェーズの学習と復習
CIOの業務改革実行マニュアル

3. ケース研修の構成

本研修教材の中心となるケース研修は、標準として 25～30 時間を想定し、研修受講者のレベルや受講可能時間を考慮し、必要に応じてアレンジできるように、全体を、事前講座、および、第1講座から第15講座までをそれぞれ 2.5～3時間の15のセッションに分割している。

なお、15 セッションの内容は、以下の通り。

	テーマ	演習内容
オリエンテーション	CIO機能概要	①CIO像とCIOの周辺環境 ②UISSとCIO ③CIOの基本的役割と求められるスキル
第1講座	経営戦略の把握	①経営環境分析と経営課題抽出 ②経営戦略全体の把握(経営戦略企画書) ③IT成熟度分析
第2講座	IT戦略策定	①主要マネジメント要件の策定 ②アクション・プランの作成 ③IT戦略企画書
第3講座	プロジェクト・マネジメント(1)	①プロジェクトの立ち上げとステークホルダー ②スケジュール策定 ③プロジェクトの成果物定義
第4講座	プロジェクト・マネジメント(2)	①プロジェクトの進捗管理 ②リスク計画と管理 ③IT化目標定義書

第 5 講座	ビジネス・システム企画と現状の把握	①ビジネス機能関連と業務フローの把握 ②現状ビジネス・リソースの整理 ③ビジネス・ルールと業務ルールの把握
第 6 講座	新ビジネス連携図	①ビジネス・システム企画の範囲 ②ビジネス連携図 ③制約条件となるビジネス・ルール
第 7 講座	ビジネス指標のモニタリングとビジネス機能構成表	①ビジネス指標のモニタリング項目 ②ビジネス・プロセス連携図 ③新ビジネス機能構成表
第 8 講座	新業務フローと新機能情報関連図	①新ビジネス・プロセス関連図 ②新業務フローの策定 ③機能情報関連図
第 9 講座	新業務ルールとIT指標のモニタリング	①新業務ルールの定義 ②個別業務処理定義 ③IT指標のモニタリング
第 10 講座	ITベンダの選定(提案依頼書、提案評価)	①提案依頼書の種類 ②提案依頼書作成 ③提案評価
第 11 講座	新システム機能の検討	①画面と帳票のリストアップ ②データ項目定義 ③運用・操作要件
第 12 講座	業務移行とシステム移行(受入)	①移行計画 ②移行のリスク管理 ③受入とレビュー
第 13 講座	セキュリティとリスクマネジメント	①情報セキュリティ ②リスクマネジメント ③個人情報保護
第 14 講座	情報リテラシー向上策と効果特定、まとめ	①情報リテラシー向上策 ②効果測定 ③まとめ

4. コースモデル

本研修教材のケース研修は、研修受講者のレベルや受講可能時間を考慮し、必要に応じて以下のようにアレンジできる。

①. 全履修パターン(3～3.5 時間×15 回)

昼間半日コース 13:30～17:00 を 15 回

週 2 回開催で 7.5 週間

夜間コース 18:30～(21:30)22:00を15回
週2回開催で7.5週間

②. 全履修パターン(6～7時間×7回+オリエンテーション)

昼間終日コース 9:30～17:00を7回
週1回開催で8週間
週2回開催で4週間

③. モデル作成パターン(3～3.5時間×6回、6～7時間×3回)

新モデル作成を中心に展開するパターン。オリエンテーションはなし。
第1講座から第4講座演習2までを0.7講座分の講義にショートカットする。
第4講座演習3「IT化目標定義書」を0.3講座分の演習として採用する。
第9講座演習3「IT指標のモニタリング」をゴールとして設定する。
必要に応じて演習を説明課題に切り替える。(12講座として実施)
昼間半日コース 13:30～17:00を6回
週2回開催で3週間
昼間終日コース 9:30～17:00を3回
週2回開催で1.5週間

④. PMフォーカスパターン(3～3.5時間×4回、6～7時間×2回)

プロジェクト・マネジメントを中心に展開する。オリエンテーションはなし。
第1講座から第4講座までを展開する。(4講座として実施)
昼間半日コース 13:30～17:00を5回
週2回開催で2.5週間
昼間終日コース 9:30～17:00を2.5回
週2回開催で1.5週間

⑤. RFP作成パターン(3～3.5時間×4回、6～7時間×2回)

RFP作成を目的に展開するパターン。オリエンテーションはなし。
第1講座から第4講座演習2までを0.7講座分の講義にショートカットする。
第4講座演習3「IT化目標定義書」を0.3講座分の演習として採用する。
第5講座から第9講座までを2講座分の講義と演習として展開する。
第10講座をゴールとして設定する。第10講座をゆっくりと2講座分の時間で展開してもよい。
昼間半日コース 13:30～17:00を4回
週2回開催で2週間
昼間終日コース 9:30～17:00を2回
週2回開催で2週間

⑥. PDCAサイクルフォーカスパターン

(3～3.5時間×2回、6～7時間×1回)

PDCAサイクルを中心に展開する。オリエンテーションはなし。

第13講座と第14講座を展開する。

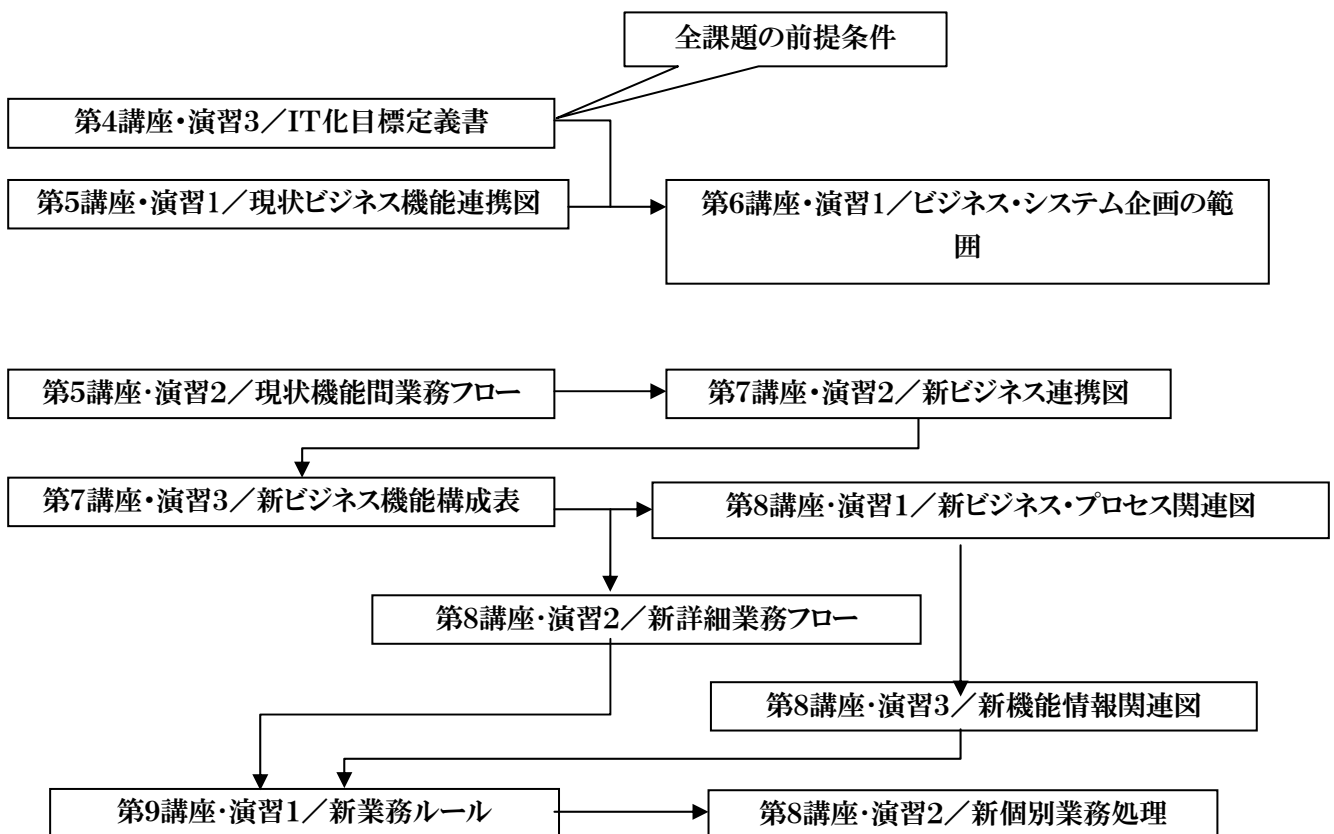
昼間半日コース 13:30～17:00を2回

週2回開催で1週間

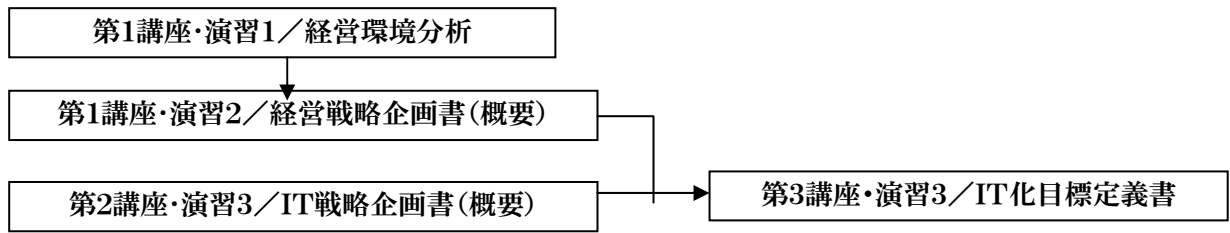
昼間終日コース 9:30～17:00を1回

5. カットできない演習課題

本研修教材は、その演習の特質上、ある課題がそれ以降のインプットとなっている場合が多くある。そのため、演習を割愛することができない。以下にその関連を示す。



以下の課題の関係は、経営者研修受講者は、左側の3つの演習省略することができる。



以上